

財 務 会 計 論

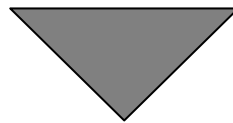
本試験

問題 12 「ストック・オプション等の会計基準」および同適用指針に関する次の記述について、正しいものは○、誤っているものには×を付すとき、正しい組合せとして最も適切なものの番号を一つ選びなさい。
(8 点)

ア. 公開直後の企業は、過去の株価情報を十分に利用できず、ストック・オプションの公正な評価単価を求めるために必要な株価変動性について、十分な信頼性のある測定は困難であることから、未公開企業に準じてストック・オプションの本源的価値による算定を行うことが認められている。

《解答 12》

ア. 誤 本肢の記述は誤りである。未公開企業に限ってストック・オプションの本源的価値による算定が認められており、公開後の企業については、たとえそれが公開直後であっても自社の株価を参照することができること等から、ストック・オプションの本源的価値による算定を行うことは認められていない(「ストック・オプション等に関する会計基準」63 参照)。



短答ポイントアップ答練 第 4 回

問題16 スtock・オプションに関する次のア～エの記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×を付すとき、適切な組合せを示す番号を一つ選びなさい。(8点)

～ 略 ～

ウ. 未公開企業及び公開直後の企業については、ストック・オプションの公正な評価額について、損益計算に反映させるに足りるだけの信頼性をもって見積ることが困難な場合が多いと考えられるため、ストック・オプションの公正な評価単価に代え、ストック・オプションの単位当たりの本源的価値の見積りに基づいて会計処理を行うことができる。

《解答 16》

ウ. × 本肢の記述は誤りである。なぜなら、本肢に記述されているストック・オプションの単位当たりの本源的価値の見積りに基づく会計処理は、未公開企業においてのみ認められているものであり、公開後の企業は公開直後であってもこのような会計処理は認められないからである(「ストック・オプション等に関する会計基準」13、60、63 参照)。